



ナザブ空港改修計画・起工式（7月30日）

中原邦之大使とジェームス・マラペ首相は7月30日、モロベ州ナザブにて、ナザブ空港改修計画の起工式を行いました。

式典には、サム・バシル国家計画モニタリング大臣、レクワ・グレ民間航空大臣、ジョン・ロツソ土地計画大臣をはじめとする閣僚や、ギンソン・サオヌ・モロベ州知事、地元ナザブ選出のロス・シモ国会議員、またゲストとしてジョン・フィルプ駐パプアニューギニア豪州大使や地元コミュニティのリーダー達が参列しました。

ナザブ空港改修計画は、約270億円（約8.7億キナ相当）の円借款による事業であり、滑走路や誘導路の拡張、空港ビルの建設等が行われます。空港ビルは上空から見るとパプアニューギニアの伝統的打楽器「クンドウ」の形をしています。日本の最新技術を用いて「エコ・エアポート」として建設されます。

ナザブはハイランド地方と海浜地方の接点に位置します。ナザブ空港改修計画により、同空港が当国第二の国際空港に生まれ変わり、国内外との連結性を高めるとともにパプアニューギニアの経済成長に貢献することが期待されます。

大日本土木と Nippo の合弁会社が施工業者となり、オリエンタルコンサルタンツグローバルと梓設計の合弁会社が設計と施工管理を担当して行われる本事業は、2022年中の完成を目指しています。